学力向上に効果のある取組事例

大分大学教育学部附属小学校

⑰校内研修などによる授業改善

取組の具体

1　全ての授業の土台となる学級経営の徹底

○学級に受容的な雰囲気や聴き合う風土が構築され、児童が安心して授業に臨めるよう学級経営（フリートーク、褒め言葉のシャワー、価値語、成長ノート）を校内研修に位置づけ学校全体で取り組んでいる。

2　学級経営の土台の上に、組織的な授業改善の取組を構築する

○学校全体で取り組む学級経営４つの取組を土台に、校内研修ともリンクさせながら授業研究を行っている。校内研修では、年間 19 本の授業研究会の後は事後研を行ったり、月に 1 度の外国語スキルアップ研修や ICT 活用研修を行ったりして教員全体の指導力向上につなげている。

○新大分スタンダードの要素を含めた「授業観察シート」を用いながら、年間一人最低２回、指導教諭等による授業観察を行い、その都度指導（事後研）を行っている。また、授業の結果を数値化し、目標管理シートにも反映している。

○学び合いの授業づくりを校内研究に位置付け、メンター・メンティの関係で授業改善を行う。また、その成果を年間一人１回校内で公開するようにし、意欲的に学ぶ OJT を推進する。

3　資質・能力の育成を、文部科学省や国立教育政策研究所の資料等から読み解き授業にいかす

○学習指導要領に基づき、付けたい力（資質・能力）を明確にした授業を日常的に行っている。

○全国学力学習状況調査の結果を、全国の国立小学校と比較し、目標値等を定めている。結果の公表後、指導教諭の分析を基に、継続して取り組むこと・授業改善が必要なことを全教職員で共通理解した後に、実際の問題を全員で解いて日々の授業改善につなげている。

○国立教育政策研究所作成の「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ授業アイディア例」を参照しながら、授業改善に取り組んでいる。

○内容ベースでなく、資質・能力ベースで編成したカリキュラムをもとに授業を展開している。年間通してその見直し（カリキュラム・マネジメント）を行い、教科横断的に指導事項を関連させて効率よく指導している。また、単元を通して付けるべき資質・能力や学習内容を捉えて授業を進めている。

4　全校で取り組んでいる「外国語」「生活・総合的な学習の時間」の知見を、他教科にいかす

○外国語科や外国語活動、総合的な学習の時間など、目的意識や相手意識を明確にした単元構想を確実に行っている。総合的な学習の時間における探究サイクルを、各教科の単元構想に活用している。

5　どの教科においても日常的に情報を活用した言語活動に取り組む

○研究テーマに「情報活用能力の育成」を掲げ、日常的に情報活用を意識して授業を行っている。

○自分の考えだけではなく、友達の考えを説明する場（対話的学び）を多く設けている。

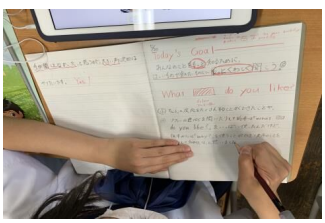
○国語で出題されたような情報を収集しパンフレットを作成する学習やインタビューから分かったことをまとめて伝える学習を、各教科だけでなく、特別活動・総合的な学習の時間において日常的に取り組んでいる。

【参考資料】　大分大学教育学部附属小学校　授業観察シート　　令和5年度

表面

日時	令和5年5月　日（ ）	学年	年　　組	授業者		教科等	外国語	指導教諭	
研究テーマ			グローカルリーダーに求められる確かな学力の育成　～情報活用能力の育成～						

	新大分スタンダードの視点	重点選択 A1つ B2つ	評価の観点例	自己評価 0.5刻み	指導教諭 0.5刻み	主に重点選択に対する指導助言（指導教諭）
A 授業構想	評価規準		・評価規準は学習指導要領を踏まえて設定できているか。 ・具体的な子どもの姿で評価規準を設定しているか。 ・本時のねらいは適切に設定できているか。			○特別活動とつないだ単元構想をすることで、単元のgoalが子どもたちの楽しみにつながり、目的意識・相手意識をもった展開が可能になっていた。 ・単元間のつながりを考えることでさらに言語活動は充実する。もしUnit1でWhat（　　）do you like_?を多用できていれば、Unit2ではさらに広げた質問を展開できることが予想される。 ・外国語は学習の頻度が少なく、「聞いて話して」を頼りに活動をすることが主となるため、記憶に残すためのヒントを散りばめたり、出してきては繰り返し何度も使用したりするしかないと思われる。 4年生までの言語材料を持たせて、引き出しから出す方法や5年生で新たに獲得した言語材料を自分の引き出しに取り出しやすいように入れる方法を考えるとよい。 個別に自分の宝箱を作るということ。 ○先生自身のclassroom English がとても豊かになったと感じる。適切な量を、タイミングを考えて使用し、子どもたちにわかりやすいと思う。心からのYou too?　はとてもなじんでいたし、1st, 2nd を使っての説明は、わかりやすい。 ◎記録に残す評価の事例提供に挑戦してくれたことは大変ありがたい。外国語の部長として、新たな取り組みを開拓している心意気に頼もしさを感じた。 ・音声がしっかり入っているのかを確認し、全員は無理だとしても評価を記録に残すこと。今回記録が取れなかった所は、次の単元ではどの場面で評価を補うか、気になった点の修正をどの場面でするかを考えながら授業を組み立てていって欲しい。 ・主体的な態度を記録に残すためには、振り返りの視点をはっきりと必ず与え、それに対応するコメントを書く習慣をつけることで変容が見取りやすいと考える。 （例）前の時間からの自分の変化 　　ペアやグループの交流から自分が得たこと 　　参考にしたり、自分に取り入れたりしたこと ◎外国語の4線ノート使用のチャレンジ、大変素晴らしい。 ・英文を書く際は小さく書かずに、4線上に書くことを約束にしておくと良いと思う。 ・聞くはlistenの聞くなのか、askの聞くなのかが、漢字からはわかりにくい。思判表の観点からすると、askの聞くかと思うので、「尋ねよう」という表現を使ったら間違いがないと思う。
	単元構想 教科横断的視点 教材開発	○	・他教科との関連を意識した単元構想をしているか。 ・他教科で付けた力が発揮される展開になっているか。 ・1人1台端末を積極的に活用しようとしていたか。			
	問題解決的な展開		・学習の課題は単元全体を見通しているか。 ・日常生活や既習事項との関連など子どもの学ぶ意欲を引き出すものであるか。 ・適度な困難さや必然性が有り、達成感や成就感を得られる展開であるか。 ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元の指導計画を作成しているか。			
B 授業展開（2つ選択）	めあて 課題	○	・めあては子どもと共有されており、見れば本時に何をするかが分かるか。 ・必然性や解決に向けての見通し、視点、手立て、条件等が具体的であるか。 ・課題や発問は焦点化されており、本時のねらいに迫るものであるか。			
	まとめ 振り返り		・課題に対応した適切なまとめとなっているか。 ・習得した学びを振り返ったり、次時への学びを意識したりできる内容になっているか。 ・振り返りの視点を与えているか。			
	時間配分設定 ファシリテーション		・学習過程における時間配分は適当か。 ・教師がしゃべりすぎていないか。動線や声かけ等は意図的か。			
	板書 教材・教具		・論理的に思考できるように比較や関係付け等の工夫をしているか。 ・子どもの思考の流れに沿った板書や板書の工夫をしているか。 ・ICT（1人1台端末を含む）やホワイトボード、掲示物等の教材・教具を効果的に活用しているか。			
	きめ細かな指導		・習熟の程度を掴むための工夫をしているか。 ・特別な支援が必要な子どもへの支援を工夫しているか。 ・C評価の子どもを中心に子どもの思考や困りなどを適切に予測、具体的な支援をしているか。			
	自己存在 自己決定 自己表現	○	・子どもの思考する時間を確保しているか。 ・子ども自身で決定する場を設定しているか。 ・子どもの困りや気づきなどの思考の流れを生かしたり関連付けたりしているか。			
	共感的人間関係		・お互いの意見を聞こうとする場や信頼関係を築いているか。 ・自分の意見を言いたくなる工夫や仕掛けをしているか。 ・ペア学習やグループ学習の目的や内容は適切か。			

評価	自己評価区分	評価平均	学びや振り返り・更なる授業改善に向けて（授業者）
4	十分満足できる	自己評価	今年度の課題である他教科との関連を意識した単元構想は、特別活動と関連して「学年の友達のことをもっと知って団結する」という目的意識を忘れずに展開することができた。しかし、本時の尋ね合う活動がバースデーカードに繋がることの確認が弱かったため、活動の必然性が弱くなってしまった。そのため、導入だけでなく終末の確認も忘れずにしていきたい。 また、ICTを活用しての評価方法は、一定の成果は得られたが、実際に動画を見て評価する際に時間がかかってしまうため、今後は撮影した動画をどのように見て評価するのか研究を深めていきたい。
3	満足できる		
2	標準である		
1	やや不十分である		

裏面